

福岡・大宰府跡（大楠地区）おおぐす

- 1 所在地 福岡県太宰府市大字観世音寺字大楠
- 2 調査期間 一九八一年（昭56）四月～九月（第七六次調査）
- 3 発掘機関 九州歴史資料館
- 4 調査担当者 横田賢次郎・高橋 章
- 5 遺跡の種類 官衙跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
当地区は条坊復原案の右郭六条二坊にあたり、大宰府政庁跡に西隣する蔵司地区の南方約二〇〇mに位置し、一五mほど南より以南は御笠川の氾濫原の痕跡をとどめている。一九七一年度に蔵司前面の県道南接地の調査で奈良時代後半ごろと考えられる南北方向の大溝（SD三二〇）を検出したが、今回の調査では、その延長部を含めて溝五条、礎石建物一棟、土壇四などの遺構を検出した。SD三二〇は幅約一三m、深さ約一・六mを測り、政庁中軸線からは西へ約一九六mに位置している。これの西側では顕著な遺構が検出されず、東側で礎石建物を検出したが、これは政庁跡前面の不丁地区から広がる官衙群の一部で、SD三二〇は政庁周辺から御笠川へ通じる排水路であるとともに官衙域の西を限るものであったと考えられる。



大宰府跡（大楠地区）木簡出土地点図

木簡はSD三二〇から一一点など計一七点が出土した。〇三二型式が二点、〇三三型式が一点で、他はいずれも〇八一型式である。ほかに木製品に墨書したものが二点出土した。一九点の墨書を見ると、文字ないし文字と推定されるもの六点、墨痕のみのもの一〇点、形態的には木簡であるが、墨痕の認められないもの三点となる。

また出土遺物から溝の時期を見れば、八世紀前半にはすでに機能し、一一世紀後半に埋没したようである。主な出土遺物は、須恵器、土師器、青磁、白磁、緑釉陶器、各種の木製品、銅銭（富寿神宝）、石帯そして木簡などである。

8 木簡の釈文・内容

式が二点、〇三三型式が一点で、他はいずれも〇八一型式である。

(1) ・×☐遠遠遠☐×

君 君 (72)×14×2 081

(2) ・☐☐☐伏☐

・☐☐☐☐ (91)×24×3 081

(3) 「佐^[千カ]☐☐」 (220)×19×2 061

(4) ・☐☐☐や未々末☐×

・☐☐☐や☐☐× (97)×19×9 081

以上、代表的なものを示したが、(1)は遠を筑前国遠賀郡を意識したものとすれば、君は郡になる可能性がある。(3)は曲物の側板に墨書したもので、樹皮で綴じ合わせている。

9 関係文献

九州歴史資料館 『大宰府史跡 昭和五十六年度発掘調査概報』

(倉住靖彦)

福岡・九州大学(筑紫地区)構内遺跡

1 所在地 福岡県大野城市大字白木原

2 調査期間 一九八一年(昭56)四月～八月

3 発掘機関 九州大学筑紫地区埋蔵文化財調査会

4 調査担当者 西健一郎・赤崎敏男

5 遺跡の種類 不明

6 遺跡の年代 弥生時代～平安・鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

当遺跡は、福岡県春日・大野城市にまたがる旧アメリカ軍基地跡のうち、九州大学に移管された南側の約一九万㎡内に所在する遺跡の総称で、春日市所在の弥生時代の遺跡として有名な須玖・岡本



(福岡)

遺跡の南西方に当る。九州大学では、各施設の建設に先立ち、一九七八年一月より構内の埋蔵文化財についての発掘調査を実施し、これまでに縄文時代の包含層、弥生時代の住居跡・土壇、古墳時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡、奈良時